

◆ 授業改善の方策

有識者による分析と考察

□ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等を高める授業改善

北海道教育大学旭川校准教授 山中 謙 司

(元国立教育政策研究所学力調査官・教育課程調査官)

調査結果から見られる特徴的な成果と課題

◇...成果 ◆...課題

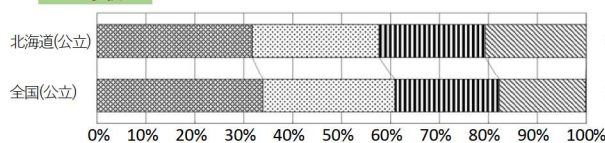
- ◇ 「国語の勉強は好きだ」と回答した児童生徒の割合が、全国と比較し、小学校では同程度、中学校では高い状況。
- ◆ 「算数・数学の勉強は好きだ」と回答した児童生徒の割合が、全国と比較し、小学校、中学校ともに低い状況。
- ◇ 「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合が、全国と比較し、小学校では同程度、中学校では高い状況。
- ◆ 「算数・数学の授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合が、全国と比較し、小学校、中学校ともに低い状況。

調査結果の分析内容

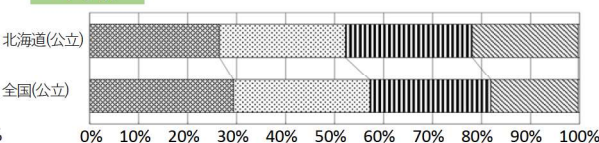
算数・数学の勉強は好きですか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



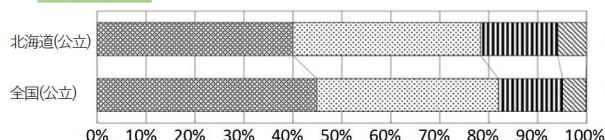
中学校



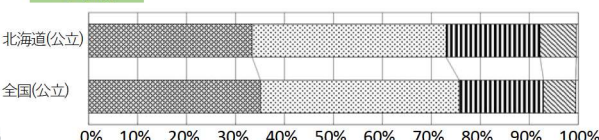
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



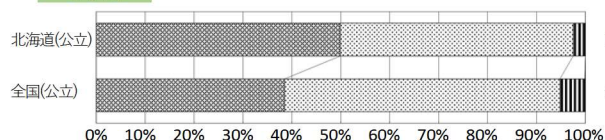
中学校



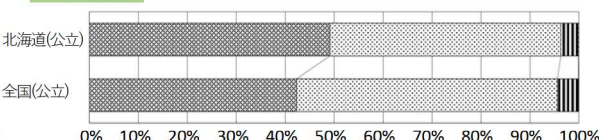
調査対象学年の生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、児童生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校



国語の学習に対して好意的に受け止める児童生徒の割合が全国に比べ、小学校で同程度、中学校で高い一方で、算数・数学の学習に対しては、低く、算数・数学の学習における児童生徒の興味・関心が喚起されていない状況が考えられます。このことは、算数・数学の授業内容の理解度に対する児童生徒の意識にも連動しています。また、学校質問調査において、算数・数学でつまずきを想定した指導についての項目では、肯定的に回答した学校の割合が全国と比べ、小学校で2.8ポイント、中学校で3.0ポイント高くなっており、指導の充実と児童生徒の理解度に対する意識に差があります。

学習に対する興味・関心や授業の理解度を高める授業改善に向けて

○ 多様な個性や特性、背景を有する児童生徒を包摂する授業改善

児童生徒が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境を教師が適切にデザインするなど「個に応じた指導」を充実させ、児童生徒にとって「個別最適な学び」が実現するように授業改善を進めていく必要があります。

○ 児童生徒の内面に潜む心情を捉えた授業改善

多様な個性・特性を有する全ての児童生徒に資質・能力を育成するためには、児童生徒一人一人の学習状況を正確に見取り、適切な指導や関わりを行うことが重要です。児童生徒の言動だけではなく、心情などの内面をも捉えながら授業改善に取り組むことが求められます。

このような授業改善に資する省察を進める際には、冰山モデル（図1）で示されるように、児童生徒の言動（していること）だけではなく、考えていることや感じていること、望んでいることといった内面（思考や心情）に迫る見取りが必要になります。教師のねらいと児童生徒の受け止めのズレを解消し、児童生徒にとって「分からなかったことが分かった」「したかったことができた」を実感できるように授業改善をすることで、児童生徒の興味・関心や理解度を高めていくことを目指したいものです。



図1 「冰山モデル」

1 教師は何をしたか？	5 子どもは何をしたのか？
2 教師は何を考えたのか？	6 子どもは何を感じたのか？
3 教師はどう感じたのか？	7 子どもはどう感じたのか？
4 教師は何をしなかったのか？	8 子どもは何をしなかったのか？

図2 「『8つの問い』による省察」

○ ICTを活用した家庭学習の取組

「個別最適な学び」の実現を図るには、授業時間や教室内部といった制限のある状況だけではなく、家庭学習を位置付けることが考えられます。学びが授業時間だけで終わることなく、家庭学習と連動するためには、授業で見いだした課題（児童生徒がしなかったこと、例えば、「調べたかったこと」「できるようになりたいかったこと」「解決したかったこと」など）を明確にもち、家庭学習においてICTを活用しながら必要な情報を収集したり、つまづきに応じたドリル問題に取り組んだりする活動が展開できるように端末の家庭への持ち帰りや翌日の授業における成果の共有の場の設定などの学習環境を充実させることが大切です。

まとめ

- 誰一人取り残さず、多様な特性をもつ全ての児童生徒の可能性を引き出すために、児童生徒の心情をも捉えながら児童生徒主体の授業づくりに引き続き取り組みましょう！
- 「教師は教えなくてもいい」「全て子どもに委ねればよい」といった誤った捉えを払拭し、時には教師が主導することが重要な場面もあることを確認しながら授業改善に取り組みましょう！